

## 「どこへ行くのですか？」

院長 長山 直弘



竹丘病院名誉院長の宮崎徳藏先生が平成28年9月20日に亡くなりました。享年77歳でした。

9月2日T病院へ入院された際に私も付き添いました。私はこの3年半、先生の病状を心配しながらも結局は何の役にも立たなかった、ということをしみじみ思ってガッカリしていました。入室されたので私は帰ることにし、先生にご挨拶すると、先生は「あなたには大変世話になった。有難う。感謝しています。」と言われました。心底そう思っておられることが伝わってきました。この数か月先生が急速に素直、単純、純粹、透明になっていかれているのを感じました。

9月15日病状が良くない、という知らせがあり、直ちにお見舞いに行きました。受け持ち医より意識がはっきりしていない、と言われました。目は見開いたままで、先生のお顔を見ているうちに涙が出て来ました。先生の左側に立って、「宮崎先生！」と呼び掛けました。「おっ！」驚いたように目を更に大きく開け、私を見られました。「長山です、わかりますか？」と言うと、頷かれました。

「どこへ行くのですか？」マスクの下から発せられる声で、しかも小さく、かすれてもいたので、はっきりとは聞き取れませんでした。「もう一度仰って下さい。」「どこへ行くのですか？」確かにこう聞こえました。でも更に確かめようと思って「誰がですか？」と訊きました。先生は右手でこぶしを作ってご自分の胸を二度叩かれました。

一瞬返答に困りました。この質問にはよく考えて答えなければいけない、しかもすぐに答えなければいけない、と思いました。三呼吸ののち、「明るい処です。」と答えると、先生は大きく頷かれました。この時、(身体で言えば心臓の辺りに)先生の心が見え、その中に実体のある玉が出現して、先生の腕を通して、私の身体の中に入って拡散するのが見えました。続いて(心臓の辺りに)私の心が見え、その中に同じような玉が出現して、私の腕を通して先生の身体の中に入って拡散していくのが見えました。

私はこの時、先生が希望に満ちてこの世を旅立たれることを確信しました。